

## 令和5年度第1回社会教育委員会議録

- 日時 令和5年8月7日(月)  
午前10時から正午まで
- 場所 徳島県庁10階 大会議室 (一部 Web 会議)
- 出席者 徳島県社会教育委員：14名  
馬場委員長、赤松委員、石倉委員、泉委員、伊藤委員、榎本委員、  
蟹江委員、岸本委員、児嶋委員、小西委員、武市委員、泊委員、  
横田委員、横島委員 事務局：8名  
教育次長、生涯学習課長、生涯学習支援課長、他5名

### ■会議概要

- 1 開会
- 2 徳島県教育委員会挨拶(教育次長)
- 3 議事 (1) 徳島県社会教育・生涯学習の施策の状況について  
(2) 徳島県社会教育委員について  
(3) 今期社会教育委員会議提言策定期間について  
(4) 今後のスケジュールについて  
(5) その他

#### 議事(3) 今期社会教育委員会議提言策定期間について

馬場委員長 今から2年間、各委員の皆様には、様々、御協力いただくことになる。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、社会教育の領域は非常に広く、社会教育委員はいろいろなことに取り組まなければいけないが、残念ながら社会教育委員について一般の人は、あまりその活動について知らないというのが現実問題。今後は、社会教育委員の活動も含め社会教育の「見える化」が非常に大事なことになる。

今回は第1回の会議であるので、委員の方々が日頃から生涯学習・社会教育についてお考えになっておられることや取組について、短い時間ではあるがお聞かせいただきたい。

赤松委員 私は一昨年まで県内小中学校の事務職員として勤務していた。約10年前に職場の中でコミュニティスクール、地域と共にある学校づくりという考え方に出会い力を注いできた。現在は、退職し、フリーランスで教育に関わる事や、コミュニティスクールの推進、文部科学省のコミュニティスクール推進員(CSマイスター)として活動している。学校に勤務していた時は、学校教育に重点を置いた見方をしてきた。学校教育は「深くて濃い」が、人の一生を考えた場合、学校を卒業してからの期間は長く、生涯学習・社会教育の重要性をとて強く感じている。これまでの経験や今回、委嘱いただいた社会教育委員としての学びを生かし、お役に立ちたいと思っている。

馬場委員長 CSマイスターとしての活動など、また教えていただきたい。

石倉委員 地域におけるボランティア活動を行っている。学校支援ボランティアや、

地域の、地域医療を考えるとという視点から、勝浦病院と連携したボランティア活動、社会教育に取り組んでいる。

元小学校教員でもあるので、地域住民とのつながりを生かし、地域をボランティア活動で支えるというスタイルで社会教育にも携わり、提言等を行っていきたいと思う。

泉委員

私たちの団体は「働きたい人が働き続けられる社会」に向けて、多様で柔軟な働き方を ICT を活用して推進していくという団体である。このような活動に取り組む団体としての立場から 2 点ほど意見を述べさせていただく。

1 つは、ICT を使うだけではなくて、文房具と同じように使いこなせるようにすることが一番大事である。多分、ほとんどの方は、私生活では使いこなせていると思うが、例えば、学校現場はもとより、特に、公民館、前回の提言の中の資料にもあったが、公民館での Wi-Fi の普及が非常に低いとあった。社会教育の拠点施設として公民館が設置されているので、公民館が ICT をシームレスに使えるような場となってほしいと思う。

2 つめは、私たちは多様な学びの場として、リアルに対面で行う学びの場と、オンデマンドでいつでも学べるという両方の学びの場を提供しており、それぞれに良さがある。

ただ、やはりオンデマンドでいろんな方が学べるという環境整備が大事だと思っている。それと同時に、学んだ成果を生かすことを想定しながら、その機会を作っていかなければ、学びは続かない。小さな成功体験を積み重ねていける場の創出も視野にいたした事業を展開していくことが大事だと思う。

伊藤委員

私は小学校の校長を退職し、現在、鴨島公民館で館長を務めさせていただいている。公民館は御承知のとおり生涯学習講座などを実施して、身近な学習拠点として利用されている。それから、イベントや行事等を通して多くの人が集まる賑わいのある「まちづくりの拠点」、そして、防災の拠点でもあるという多面的な要素を持っている。今、意見があったように Wi-Fi 機能という点に関しては、一部、整っているところもあるが、やはり脆弱であることは否めない。私どものところも同じ課題がある。今後、住民主体の地域づくり、その活動を支援する公民館として、どのような活動が望ましいのか、さらに、地域づくりを輪となって展開できるよう取り組んでいきたいと思っている。この会議で一緒に勉強して参りたい。

馬場委員長

社会教育における ICT の環境整備に力を注いでいく必要がある。共に考えていければと思う。

蟹江委員

徳島県 PTA 連合会副会長として参加させていただいている。一昨年に広報委員会の副委員長、昨年は広報委員会の委員長を務めた。今年度は副会長として県の PTA 活動と各市町村の単位 PTA の活動をつなぐよう取り組んでいる。

加えて、鳴門市の学校図書館サポーターをしている。先ほど「図書館サポーター養成講座」の事業紹介があったが、鳴門市は図書館サポーターの活動が盛んである。「図書館サポーター養成講座」では、学校図書館の見学・研

修のメニューが組まれているが、コロナ禍の間は、鳴門市の学校図書館の見学という活動はできなかった。今年度の養成講座では、冬に鳴門市の小中学校の図書館見学もあると聞いている。本当に魅力的な学校図書館がたくさんあるので、そういう場を見学していただいて、地域の方々の生涯学習・社会教育の場として提供することができるのは、図書館サポーターをしているひとりとして誇らしいなあと思っている。

私の子どもが、鳴門市内の小学校に通っている縁で、地域の子ども食堂や、放課後子供教室のお手伝いをさせていただいているので、これまで経験してきたことを生かして、社会教育委員会議で役立てたらと思っている。

岸本委員

私は、3年間阿南市の新野小学校で校長として勤め、今年度から海部郡の海南小学校の校長として勤めている。校長就任と同時くらいに、コロナが始まり、体験活動、異年齢集団の交流等が、本当にできなくなり、子どもたちの様子が違うというような感じを受けていた。

今年になって、やっと体験活動、異年齢集団による交流等ができ始め、ようやく、本来の学校教育の姿を取り戻しつつあると感じている。

「開かれた学校」について委員長が言及されていたが、本校では、総合的な学習の時間という時間を核として、地域の人やモノやコトを、学校教育、子どもの教育活動にとり入れていこうというような動きがある。本校の場合、今年度、海部川の自然体験学習や、きゅうり農家の見学、伝統の祭の取材等で、積極的に外へ出て行く活動も増えてきている。

ただ、学校から働きかけることが、ともすれば多くなるのだが、今年7月上旬に、地域の方から、海部川筋の伝統の慰霊踊りへの子どもたちの参加の提案があった。

学校からも働きかけるが、地域からも提案していただけるような学校運営を、少しずつ努力していかなければならないと思っている。

馬場委員長

地域と学校が連携・協働するには、仕組み作り、仕掛けが必要だと思う。

児嶋委員

私は、保育士や幼稚園教諭になる人の教育に携わっている。

「つながり」や「誰一人取り残さない」ということが、社会教育はもちろん、社会全体の大きなテーマになっていると思う。

例えば、子どもに向き合っている御家庭では、この夏休み、普段できないことをしたり、一緒に図書館に行ったり、自然に触れたり、学校ではできないような体験ができる。そして、それが、非認知能力の育成に非常に重要だということも理解されてきている。

ただ、一方で夏休みは、給食がないことから、食事もとれないというような家庭もある。子ども社会の格差ということが、だんだん顕在化してきている。情報をしっかりキャッチして子どもに目を向けて、いろんなことができる家庭と、その情報すら届かない家庭との格差というのがどんどん大きくなってきている。

社会教育には民間の素晴らしいパワーがあって、組織に縛られずに自由に動けるところが強みだと思うので、どうすれば、困難を抱える御家庭と繋が

っていけるかということが、社会教育の大きな課題になると思う。

私のできることと言えば、まず保育者養成を通して、地域の繋がりを生み出していけるような人材を育てていくこと。そして、もう一つは、子育て支援のイベントなども開催しているので、それをもっと充実させていくこと。

子育て相談などでは、問題がなさそうに見える方が、話を聞くと、深刻な状況を話されることもあるので、相談の場があるということ、さらに周知していくことも役目だと思っている。

小西委員

私は県外大学を卒業後、約6年間一般企業に勤務していた。現在は、学び直しも兼ねて大学に入学して、勉強しているところである。私は29歳なので、大学では、10歳くらい年下の学生たちと交流する機会が多い。私のように社会人と、学生の中間的な立場、橋渡しの役割として、この場で若い学生たちの意見も発信していきたいと思っている。

特に、家庭教育、私の友人にも子供が生まれることが増えてきて、感じることは、子育ての中のデジタル化についてである。YouTubeを見るのが悪いわけではないが、そういうものが子育ての中心になっている傾向も強く、横の繋がりとはいくか、人と人の繋がりが減っていると感じる。

私は、塾の講師としてアルバイトもしているが、子どもたちに夏休みに何をやるのか尋ねると「YouTubeを見る」と言う子どもが多く、体験不足が今の子どもたちを取り巻く課題であり、経験や体験の機会を増やすことが一番重要なことだと感じている。このように、若者の意見をこの場で発信していきたい。

馬場委員長  
武市委員

若い人の意見をしっかりと発信していただきたいと思う。

私は7月1日付けで徳島放送局に着任した。社会教育委員ということで、社会教育の領域に入るのは初めてではあるが、我々はメディアを通して社会教育、地域課題解決などに貢献・奉仕していくということが主な仕事。本日オンライン参加したのは、台風接近の影響で土砂災害警戒情報の対応をしながら、会議に参加させていただいている。若手から幅広い年代が繋がっていくことが社会教育の一つであり、皆で一緒に考えることが防災にも繋がると思うので、幅広い部分で協力させていただきたいと考えている。

泊委員

本業は証券会社だが、徳島を元気にしようという活動もやっている。オペラを新たな徳島の文化と魅力にしようと、芸術文化を通して、まちづくりを進めていくという活動で、昨日は、鴨島公民館、伊藤委員のところでお世話になったところであり、大変良い関係を築かせていただいた。

オペラや阿波踊りは400年の伝統を持つ。先ほど「世代を超えて開かれつながる社会教育推進事業（せだつな）」の中で、小松島の「吹筒花火」と「祇園囃子」が紹介されていたが、こちらも約400年になり、視野を広げると茶道や人形浄瑠璃等の芸術・文化・伝統、いろいろなものが繋がってくる。このような背景から、社会教育推進事業「せだつな」に協力させていただいている。高校生たちが、ありとあらゆる場へ出ていき、自分たちの街の魅力を発信している。私たちの役割は、そこに対して「生きたお金」をつなぐこ

と。クラウドファンディング事業をやっているの、それを通じて、人から共感を得て、感動を得て、どのように合意に繋げるのかということに取り組んでいる。

参加の高校生も多彩なアイデアを考えてくれている。昨年度は、クラウドファンディングのリターンとして、寄附をした企業のPR動画を高校生が作った。私の会社のPR動画なのだが、非常に良くできていたので嬉しくて、いろいろな会合等でも紹介している。

それから、私は、ロータリークラブにも加入している。地域で一生懸命ボランティアをされている方と協調して持続可能なものをつくるということ、先ほど、委員長が話されていたので、企業の集合体と社会教育はコラボレーションできるように思っている。

馬場委員長 社会教育と企業との連携というのは非常にありがたい。ぜひお願いしたい。

横田委員 県教委の生涯学習課で5年間勤務をして、社会教育委員は2期目となる。前回任期の2年間は鳴門高校の校長をさせていただいていた。今回、異動があり城ノ内中等教育学校で校長をさせていただいている。学校は異動になったが、どの学校の子どもたちも、コロナ禍を乗り越えて、元気に活動している。

社会教育への取組についてであるが、先ほど赤松委員が仰ったように学校教育は深い学びなのだが、卒業してからのほうが長い。その長い中で、どのように社会教育に取り組むのか、その糸口を生徒たちに作ってあげられるような学びの機会を与えてあげたいと思っている。

私自身の県教委での経験や学びを、学校の現場で生かすことができたかと常に思ってきたところであり、前任の鳴門高校では、ある程度のことのできたのではないかとと思っている。現在の勤務校である城ノ内中等教育学校でも、生徒たちと社会教育をどのように繋ぐのかということを考えていきたいと思っている。

馬場委員長 中高一貫校に勤務されているので、また新しい取組をされることと期待している。

横畠委員 今年度4月より穴吹中学校の校長をさせていただいている。今回、初めて社会教育委員を務めさせていただくことになる。本校でも、学校運営協議会が4月から本格的に始まった。しかし、地域学校協働本部が随分前から稼働していた地域でもある。地域学校協働本部のメンバーから「地域学校協働本部」と「学校運営協議会」とは、どのように違うのか、それから、どのように連携するのか、分からない部分があるという声が上がってきたので、既に3回ほど様々な話し合いを行った。文部科学省では「一体化」という言葉で説明しているが、実際のところ理解しづらく、難しい部分もある。

最終的には、子どものため、地域のためという趣旨を説明し理解を得て、進めている。やはり「学校を核とした地域づくり」、あるいは「地域と共にある学校」というような往還する形で、学校の運営を進めねばならない。地域と学校の両輪が必要だということが、非常によくわかった。

そして、「キャリア教育」にも力を注いでおり、地域で活躍している方や、地域の出身者でグローバルに活躍している方を迎え話を伺っている。子どもたちのキャリアモデル、憧れの存在の発見に繋げ、子どもたちが将来、地域で活躍できるような仕掛け、基盤創りを行っている。

この夏休み期間にも、トルコ地震の際に、日本を代表して消防で活躍した穴吹町出身の若者にも話をさせていただいた。

地域学校協働本部のメンバーからは、農業や林業についても知ってもらい機会を設けてほしい。本当に地道に地域で取り組む人たちの話を聞き、子どもたちに興味を持って欲しいという要望もあったので、今秋にかけて計画を練る予定である。職業を知った上で、職場体験を実施する取組は、小中連携で取り組んでいきたいと考えている。

地域と学校が一体的となつて教育活動に取り組むことは、これからの子供の育ちに必要な仕掛けだと思うので、学校長として、また社会教育委員として、学ばせていただきたいと思っている。

馬場委員長  
榎本委員

取組や活動の様子等、ぜひ、報告いただきたいと思う。

私は20年間、福祉の現場で従事者として携わっている。今日はオンラインで参加させていただいているが、皆様にお見せしたいことがある。共生社会は、座学だけではなく、私たちのリアルな生活の中に福祉はあるということ、子どもから私たち大人も含め、「知る」という環境を作っていきたいと思い、8月4日アミコビルにてインクルーシブカフェをオープンした。

四国では初となる Orihime パイロットによる接客を御覧いただける。遠隔操作ロボット Orihime を使い、寝たきりの方、在宅の方、車椅子の方、インバウンドの方、引きこもりの方等、まだ外に出られない方が世の中にはたくさんいる。また、徳島はもちろん四国にもたくさんいらっしゃる。

そういった方々の働く選択肢、コミュニティの場を創出したいと思い、この遠隔操作ロボットを徳島初、四国初として導入した。画面を通して御覧いただいている Orihime は、遠隔で、スタッフが鴨島町の方から操作している。

今日は、スタッフが遠隔で操作しているが、カフェのオープニングの時には、東京・北海道・沖縄・鹿児島・奈良等、県外各地から遠隔で、障がい等のある当事者の方々が、Orihime パイロットとしてサポートしてくださった。

今後は、四国で初のパイロットとして育てていき、たくさんの方々に、共生社会を実現する姿を見ていただこうと思っている。また、カフェでは、車椅子ユーザーの方々が、3分で着物が着られるインクルーシブな浴衣を、石川県の方から取り寄せており、車椅子から移乗しなくても、そのまま着ることができる。車椅子ユーザーだけでなく、インバウンドの方にも簡単に着ていただくことができるので、ここに来て着替えていただき、そのまま浴衣で観光や阿波踊りに行っていただけるようになっている。

座学で共生社会について学ぶだけではなく、実際に、遠足や修学旅行、社会見学の機会に実際に見て、知っていただきたい。私たちは皆が助け合って生きている。当事者というのは、障がいのある方や高齢を指すだけではなく、

私達も当事者であるということ、この場所から伝えていきたいと思っている。

馬場委員長

共生社会を実現していくには、皆が当事者意識を持つことが重要であり、そのためには知識のみの理解ではなく、しっかりと「知る」ことが重要。

さて、社会教育委員会議の提言策定期間の見直しについて、各委員にお諮りしたい。これまで、2年に一回、委員任期が終わるまでに、協議のとりまとめとして提言を出していたが、その期間を少し伸ばしていきたいということである。この提案の背景として、これまでも、国や県の方針について意識をしつつ提言をまとめてきたところであるが、国の教育振興基本計画や、県の行動計画等、県側の大きな政策と歩調を合わせ、社会教育をより推進していきたいという考えがある。

それでは、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

資料1の「策定期間と内容」について御覧いただきたい。これまで社会教育委員の皆様には委員任期2年の間に各委員の知見に基づき、徳島県の今後の社会教育・生涯学習の方向性について御意見をいただき、提言として取りまとめいただいていたところであるが、今回、提言策定までの期間を2年から4年に延長することについて、皆様に御検討いただきたいと考えている。

続いて、2の「期間見直しの理由」について御覧いただきたい。これまでも各期の社会教育委員から、提言について意見の取りまとめに止めず、提言内容の事業化や、その進捗について確認・検討する機会の設定について意見をいただくことがあった。このような御意見に加え、資料2に記載している理由がある。

(1) 徳島県行動計画、教育大綱、徳島県教育振興計画等の上位計画の方向性と社会教育委員会議提言内容を協調させ、社会教育施策についても足並みをそろえていきたいという考えがある。

(2) 提言内容を教育振興計画等に反映させることができれば、提言内容の実現にむけて予算化はもちろん予算の拡充につながり、社会教育の推進につながるというふうに考えられる。

(3) 提言内容を教育振興計画等へ反映させることができれば、毎年実施される教育振興計画の点検評価等を活用し、提言を受け取り組む施策について、年度ごとに進捗を確認して行くことができることから、事業の成果と課題を可視化できると考えている。

次に、3の「期間延長によるスケジュール案」について御覧いただきたい。社会教育委員会議提言内容を次期教育振興計画に反映させていくことを想定したスケジュール案を記載している。今回、就任いただいている皆様が、第36次の委員となる。第36次委員には、提言テーマの設定、提言骨子と提言素案の協議をお願いすることになる。そして、次期の37次委員には、第36次委員会議から提言素案を引き継ぎ協議いただき、提言案から提言完成までをお願いすることになる。

このように、第36次、第37次の2期4年にわたる社会教育委員会議の御意見を一つの提言としてまとめていただき、令和8年11月を目途に提言を策定するという計画となっている。

今回の期間変更は、平成21年に提言策定を開始して以降、初めてとなるため、様々な御意見もあると思う。本日は会議時間を超過していることもあり、お手数をお掛けするが、メール等で御意見等をいただければと思う。

馬場委員長

それでは、会議時間が超過しているので、質問や御意見については、事務局へお送りいただきたいと思う。以上で、本日は終了とする。